第2回　よくわかる『資本論』第2巻講座 ニュース　　2024.11.3

『資本論』東京協議会 「第2巻」 運営委員会

はじめに

一大政治戦が終わりました。自公政権を過半数われに追い詰めたことは大きな成果ですね。「賃金アップ」が異口同音に語られましたが、真の解決のために学習を続けましょう。

ご要望を電話で聞き取り一つながった方は15人です。ご協力ありがとうございました。この講座には、年齢的には70代を中心に80代、30代と約30名の方が参加されています。学習歴は東京学習会議時代からの方、今回初めて第2巻を学習される方など多様です。第 1 回の感想では、”よくわかった“”面白い“”熱意が伝わる“が主でしたが”何を理解すればよいかがわからない“もありました。皆様の期待も伝わってきました。

zoom 参加者の交流会を1月東京労働会館会場の時に、第1回を行ないます。また、資料・ワンポイントなど講義に関わる要望は講師宮川先生にお伝えしました。

【前回学習】

ワンポイント ①最低賃金1055円に決定。これは妥当か、賃金とは何かが問われる。「賃金は生計費」は長年培われた歴史がある。日本でなぜなかなか浸透しないのでしょうか？

②新しい資本主義の戦略図。“公益重視”の企業、株主優先からの模索が始まっています。株式企業の社会化は未来社会への橋渡しで資本主義の中から社会主義が育っていきます。

エンゲルス『序言』

①エンゲルスの編集方針は一方で「脈絡の通った体系主義」、他方で「著者マルクス自身の書物」にするというものでした。「たえざるマルクスの自己批判のために、理論の到達点に叙述を適合させることができなかった」ままマルクスは亡くなりました。その主要点は「資本と収入」に関わることで、A・スミスなど古典派の影響からなかなか抜け出せませんでした。これは宮川先生の専門のご研究で「たった一人の反乱、面白かった。」と語られます。今後、講義でマルクスの成長物語に触れていただけることを期待しましょう。

②ロートベルトゥス「レンテ」理論の「マルクス剽窃」に対するエンゲルスの反論

「レンテ」理論・・・c（不変資本）＋v（労働力価値）＋m（利潤）のうちv＋mは本来のvを低くし、その分をmとして搾取する。生産性が高まればc補填もできる。それに対しマルクスは抽象的人間労働でvとそれを上回る剰余価値mを創造する。c、（原料・機械の価値）価値を具体的有用労働で生産物に移す。このように「労働の二重性」で説明しました。剰余価値を「地代」「利潤」と区別して命名し、一般化しました。「燃素と区別し、酸素を発見」と共通します。 A・スミスも実質剰余労働を見抜いていました。剰余労働は私の発見ではないとマルクスは言います。しかし A・スミスは、剰余価値の発生の仕組みも不変資本の正しい説明もできませんでした。

■講座参加者の交流のため、受講生と運営委員の自己紹介を紙面でおこないます。その際には御協力ください。